

# JVMA通信

■ No.11 (平成26年1月号) ■

(発行元)

Japan Valve Manufacturers' Association

一般社団法人 日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: [info@j-valve.or.jp](mailto:info@j-valve.or.jp)

URL: <http://www.j-valve.or.jp>



## ■ No.11 (平成26年1月号) 目次

### ■ 新年賀詞交歓会開催報告

・新年賀詞交換会の開催 ..... 1

### ■ 関係官庁からのお知らせ

・「消費税転嫁対策室」の設置について ..... 8

### ■ 年頭のご挨拶

・田淵 宏政  
一般社団法人日本バルブ工業会 会長 ..... 2

・田中 哲也  
経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長 ..... 2

### ■ 当会の広報活動報告

・「ばるちゃん着ぐるみ」の制作決定!!! ..... 8

### ■ セミナー開催報告

・「次世代リーダー育成研修」事業報告 ..... 4

### ■ 今後の主な予定

・国際委員会主催セミナー ..... 8

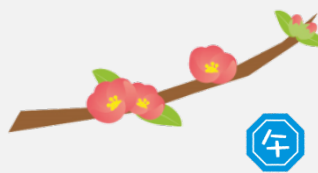
(平成25年11月～平成26年1月) ..... 9

■ 会員の動向 ..... 12

## ■ 新年賀詞交歓会開催報告

### 新年賀詞交歓会の開催

開催日時: 平成26年1月14日(火) 12:30~14:00  
開催場所: 銀行倶楽部 3階 大ホール  
出席者数: 158名 (来賓: 49名、会員: 109名)



去る1月14日(火)、当会の「新年賀詞交歓会」が東京・銀行倶楽部において開催された。

会長挨拶: 田淵 宏政 会長

来賓代表挨拶: 田中 哲也 氏 (経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長)

乾杯: 中川 哲 副会長

中々め: 中村 善典 副会長



冒頭挨拶をされる  
田淵会長

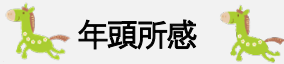
会の冒頭、田淵会長から挨拶があり、今年当会は創立60周年を迎えるが、60周年は通過点であり、これから何をどのように事業展開していくかが重要である。先人が築かれたものを守りながらも、必要に応じて柔軟に変革していきたいとの抱負が語られた。

来賓を代表して田中素形材産業室長よりは、我が国のものづくりを支える素形材産業に対しては、各社の競争力を高めるよう事業環境の整備に取り組んでいく。また、元気でチャレンジする企業には、これからも積極的に支援していくとの挨拶があった。



来賓代表挨拶をされる  
田中素形材産業室長

■年頭のご挨拶



一般社団法人日本パルプ工業会 会長 田淵 宏政



平成 26 年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当工業会会員の皆様方には平素から多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定するなど明るいニュースがありました。また、日本経済においても安倍内閣の経済政策(アベノミクス)により、昨年の後半から僅かではありますが回復の兆しを肌で感じる事が出来ました。しかしながら、今年 4 月 1 日からの消費税増税に対する駆け込みによる需要を考慮しますと、まだまだ安心はできない状況です。また、新設住宅着工件数につきましても、増加傾向にはありますが、前述で申し上げた需要によるものとも考えられ、その反動が今後どのようなようになるのか注視する必要があります。

一方、世界経済も上向きになりつつあると言われておりますが、米欧中とも課題を抱えたままで、回復力に欠く状況です。また、アメリカでは民間においては堅調に推移しているものの、財政の壁が払拭できておりません。ユーロ圏も国債の安定を取り戻したものの実態経済は弱含みで、中国においても底打ちの状況から安定成長への模索をしているのが実態です。

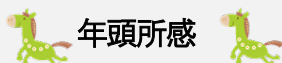
そのような状況下で当業界を取り巻く環境は、素材価格の高騰が一段落しているものの世界経済の動向次第では、素材価格や原油価格の高騰が懸念されます。

また、生産・販売・サービスのグローバル化においても、日本は TPP 参加への交渉が進んでおり、当工業会としてもその影響を考慮する必要があります。

当工業会は、今年で設立 60 周年を迎えます。1954 年 3 月 21 日に「日本弁工業会」を創設し、その後、「日本パルプ工業会」として歴史を重ね、還暦の 60 周年を迎えることになりました。この記念すべき年に、昨年 4 月 1 日に一般社団法人化したことを併せ、会員の皆様と共に、新組織体制のもとさらに活発な事業活動に取り組んでいきたいと考えております。具体的な活動としては、昨年に引き続き、パルプ産業ビジョン(第 3 期)のアクションプランに基づき、経営、人材育成、グローバル戦略の展開、環境対策等の各種施策を実施して、より信頼され成長するパルプ産業を目指して参ります。人材育成としては、若手及び次世代リーダーを対象とした研修会を行い、環境対策としては、パルプ製品アセスメントガイドラインに基づく、グリーンパルプ事業の普及・啓発に努めて参ります。また、同時にパルプ産業の地位向上のために、積極的な広報活動を展開して参ります。特に、今年で 3 回目となる「パルプフォト五七五コンテスト」や各地で開催される展示会へマスコットキャラクター「ばるちゃん」を活用した出展などに力を入れて参ります。

今年の干支「午」は、人の役に立ち陽気で派手と言われております。我々のパルプ業界はお世辞にも派手とは言えませんが、生活(ライフライン)やあらゆる産業に欠かすことの出来ないパルプの提供を通じて、人の役に立っていることは、紛れも無い事実であります。その為、一般の方々に、もっとパルプのことを知ってもらい、将来のパルプ業界発展と共に社会に貢献できるよう工業会一丸となって取り組んで参りたいと考えております。

おわりに、関係各位のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご繁栄とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長 田中 哲也



平成 26 年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、いわゆるアベノミクス効果により、我が国経済はようやく回復の兆しが見えてきました。我が国製造業も大企業を中心に業績が着実に改善し、リーマンショック以前の水準を上回った企業も少なくありませんでした。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定は、国民の中に広がる漠然とした閉塞感を払拭する明るいニュースとなりました。

■年頭のご挨拶

しかしながら、我が国製造業を取り巻く環境は、依然として予断を許さない状況にあります。具体的には、新興国企業の追い上げは激化し、企業規模の大小にかかわらず、いまやグローバル競争に晒されないものづくり企業を見出すことは困難です。また、国内需要が頭打ちする中、ビジネス・チャンスはますます海外市場に移っています。さらに、3Dプリンタに代表されるようなものづくりのデジタル化も着実に進み、匠の技もデジタルデータに置き換わりつつあります。今後、少子高齢化で国内労働資源は希少化し、付加価値の低い単純労務提供型のものづくりはますます困難となる中で、国内での“良いものづくりの現場”を残しつつも、如何にして旺盛な海外需要を取り込むことができるかが企業の成長を左右する重要な鍵となります。

このような認識の下、昨年3月には、「新素形材産業ビジョン」を策定し、前回のビジョンから7年ぶりの全面改訂を行いました。新素形材産業ビジョンでは、今後の素形材産業の目指すべき方向性を示すとともに、我が国素形材産業に携わる産学官関係者の共通の指針を得ることができました。本年も、新素形材産業ビジョンに示された方向性に基づき、我が国素形材産業の更なる発展を実現するため、経済産業省として、以下の三つの取組を重点的に実施します。

第一に、挑戦する企業を強くする取組を支援します。

我が国の素形材産業において、激化するグローバル競争に勝ち抜いていくためには、環境変化に機敏に対応した高い競争力を有する企業であることが必要です。具体的には、高い技術力で差別化される企業、海外需要を積極的に収益化できる企業、新分野需要を開拓・収益化できる企業、アジアの新興企業に負けないコスト競争力のある企業などが挙げられます。

経済産業省としては、ものづくり中小企業の研究開発活動を積極的に支援するとともに、設備投資、試作品開発、販路開拓についても一体的に支援します。また、設備投資促進税制、研究開発税制、事業再編促進税制などを通じて、挑戦する企業を強くするような取組を積極的に実施します。さらに、昨年成立した産業競争力強化法に基づく企業実証特例制度やグレーゾーン解消制度の積極的な活用も期待されます。

また、ものづくりのデジタル化を踏まえ、金属粉体を使った産業用の三次元積層造形装置(いわゆる3Dプリンタ)の研究開発プロジェクトを実施します。これは、付加価値の高い金属部品を製造するための次世代3Dプリンタの装置開発等をオールジャパン体制で行うものです。

さらに、4月から予定されている消費税の税率引上げなども踏まえ、「素形材産業取引ガイドライン」の改訂を2月末までに行います。

第二に、グローバル需要を獲得するための海外展開を引き続き支援します。

多数の中小・小規模企業からなる我が国の素形材業界にとっても、海外需要の取り込みによるグローバルな収益構造の確立の必要性は論を待ちません。また、海外展開は、事業構築全体の効率化による生産性の向上や、海外での新たな取引関係構築による“自立した”中小企業へのステップ・アップにもつながります。

昨年、素形材産業室では、新興国における海外展開の可能性等を調査するため、ベトナム、フィリピン、インド、ブラジルの4カ国において「素形材産業海外ミッション」を実施し、多数の素形材企業経営者や団体関係者等が参加しました。また、ロシアにおいても素形材産業調査を実施しました。

本年は、こうした「素形材海外ミッション」の更なる充実に加え、販路開拓や展示会出展支援などをジェトロ(独立行政法人日本貿易振興機構)と連携して行い、商談機会の提供や海外企業とのマッチングなどの支援を推進したいと考えています。

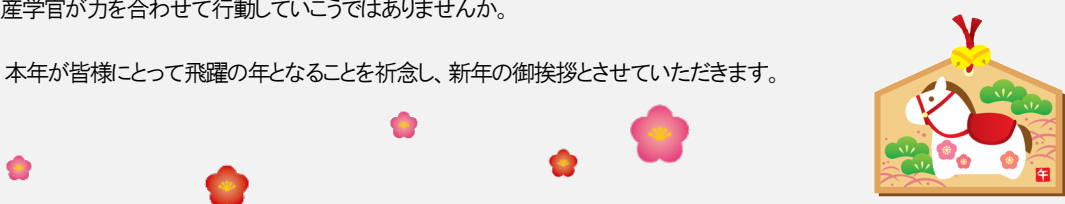
第三に、素形材産業の魅力の発信、人材育成を支援します。

素形材産業はものづくりの基盤を支える重要な産業です。しかし、素形材業界はいわゆる3Kのイメージが未だに根強く、企業が求める人材を採用することに大変苦労しています。また、ものづくりの現場におけるデジタル技術の進歩・普及によって、求められる人材のスペックも変わりつつあります。

こうした現状を踏まえ、ものづくりの現場の中核を担うような人材の採用・育成などに係る支援策の検討を進めるとともに、工業会や大学等との連携を通じて、素形材業界における技術系人材の充実・強化を目指していきます。なお、毎年11月の素形材月間に合わせて、素形材産業の重要性やものづくり現場の魅力等についても積極的に情報発信していきます。

さて、米国の社会学者ロバート・K・マートンは、「予言の自己成就」という考えを提唱しました。これは、当初の不完全な状況の規定でも、人々はその状況規定を信じて行動することによって、結果として当初規定された状況が現実となるというものです。複雑な現代社会にあって、現状を正確に把握することは至難の業です。しかし、マートンの理論に従えば、状況を規定することが難しく、不完全であったとしても、関係者がこうなるべきだと信じて行動すれば、結果的にはそれが実現されるという訳です。まさに、「新素形材産業ビジョン」に示されたあるべき将来像の自己成就を目指して、産学官が力を合わせて行動していこうではありませんか。

末筆ながら、本年が皆様にとって飛躍の年となることを祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。



■セミナー開催報告

一般社団法人日本パルプ工業会「次世代リーダー育成研修」事業報告

パルプ産業ビジョンに掲げるテーマ「人材の確保と育成」に向けたアクションプランの一環として、平成25年9月～11月の各月2日間ずつ計6日間に渡り、本研修を開催した。

研修は下記掲載のカリキュラムに沿って進められ、最終日には受講者が一人ずつ研修の成果として、半年後の目標、現在ある問題とその原因分析、問題解決のための対策を発表した (p6)。

p.6～p.7 掲載のアンケート結果からも見てとれるとおり、受講者からの評価は上々。カリキュラム内容も概ね、受講者が研修前までに抱えていた悩みにマッチしたものだった。座学一辺倒ではない研修の進め方に対しては、特に評価が高かった。

今後は、(ある程度時間を置いた後)受講者の所属企業上層部にも今回の研修についての意見を聞き、次回の開催について検討を進める。

■開催概要

開催期間：平成25年9月19日～20日、10月17日～18日、11月14日～15日

開催場所：機械振興会館

受講者数：10社18名

社名(人数)：オーエヌ工業(2)、兼工業(3)、金子産業(2)、キタムラフォーセット(1)、キッツ(1)、三栄水栓製作所(2)、東工・パレックス(2)、中北製作所(1)、フジキン(2)、ロルクジャパン(2)

年齢構成：平均36.1歳(20代=3名、30代=8名、40代=7名)、最年少24歳、最年長43歳

勤続年数：平均10.5年(10年未満=11名、10年以上=7名)、最短3年、最長22年

部下の数：平均=5.3人、最少=0人、最多=19人

所属部門：営業、購買、技術、生産管理、開発、品質保証等

受講料：84,000円

講師：寺本 明仁 氏 (株式会社誠和マネジメント 代表取締役)



■次世代リーダー育成研修カリキュラム

9月19日(木)

9月20日(金)

時間	実施内容	時間	実施内容
13:00～13:30	【挨拶】 ●全研修カリキュラムの説明 ●第1回研修カリキュラムの説明 ●自己紹介	9:00～9:30	【振り返り】 ●昨日の振り返り
13:30～15:30	【講義】【討議】 ●リーダーシップのあるべき姿とは？ ●自分のリーダーシップスタイル ●リーダーシップ:変革の必要性	9:30～12:00	【講義】【演習】 ●問題解決思考 ・「問題」とは何か/原因の掘り下げ
15:30～17:00	【講義】【討議】 ●マネジメント活動の基礎と本質 ●リーダーとしてのありたい姿を描く	12:00～13:00	昼食
17:00～19:00	懇親会	13:00～15:30	【講義】【演習】 ●達成管理マネジメント ・マネジメント機能の分析 ・マネジメント機能強化策のポイント
		15:30～17:00	【演習】 ●職場実践計画の策定

※次回までの宿題:職場でのマネジメント強化対策の実施と効果測定

■セミナー開催報告

10月17日(木)

時間	実施内容
13:00~14:30	【振り返り】 ●職場での改善事例共有 ●職場での課題共有
14:30~15:30	【講義】【討議】 ●人材育成とは何か
15:30~16:30	【講義】【討議】 ●「思い込み」の払拭
16:30~17:00	【講義】【演習】 ●「聴く」スキル

10月18日(金)

時間	実施内容
9:00~9:30	【振り返り】 ●昨日の振り返り
9:30~10:30	【演習】 ●「聴く」スキル
10:30~12:00	【講義】【演習】 ●「質問する」スキル
12:00~13:00	昼食
13:00~14:00	【講義】【演習】 ●「褒める」スキル
14:00~15:00	【講義】【演習】 ●「叱る」スキル
15:00~16:00	【講義】【演習】 ●「指示出し」「報告受け」のスキル
16:00~17:00	【演習】 ●職場実践計画の策定



※次回までの宿題:職場でのコミュニケーション改善対策の実施と効果測定

11月14日

時間	実施内容
13:00~14:30	【振り返り】 ●職場での改善事例共有 ●職場での課題共有
14:30~16:00	【講義】【討議】 ●ミーティングマネジメント ・ミーティング運営上の課題 ・ミーティングマネジメント力強化と対策
16:00~17:00	【講義】【演習】 ●プレゼンテーションスキル

11月15日

時間	実施内容
9:00~9:30	【振り返り】 ●昨日の振り返り
9:30~12:00	【演習】 ●職場改善計画の作成 ・問題整理&計画作成
12:00~13:00	昼食
13:00~16:30	【発表】 ●職場改善計画の発表 ※1人15分の持ち時間で発表
16:30~17:00	【まとめ】 ●発表内容の講評&まとめ

■研修の進め方

受講者18名が4グループ(毎月メンバー変更)に分かれ、講師から出される課題について討論し、まとめた意見を各リーダーが発表する形式を基本として研修は進められた。また、二人一組でのロールプレイを行ったり、職場で抱える問題等について意見を交換しあったりする時間もあり、変化に富んだ研修の進め方は受講者からも好評を得た。

研修の様子  
4~5名で1グループを構成



■セミナー開催報告

■最終日(11月15日)の発表

最終日には、受講者が一人ずつテーマを掲げ、半年後の業績あるいは職場をどのような状況にしたいかという目標を発表した。これは単なる意思表示にとどまらず、①現在ある問題、②その問題に対する現在の対応状況、③問題解決のために必要な経営資源、④制約条件、⑤制約条件解除のための対策、⑥懸念事項、等についての分析や半年後までの具体的な活動予定も交えた発表で、受講者にとっては6日間で学んだことをどう生かすかを考える、本研修の集大成であった。

受講者が掲げたテーマ（順不同）

- QCD 改善のための活動
- 次世代機能ユニットの開発
- 社内教育の向上、社員間のコミュニケーションの向上
- 職場改善＝人材の成長
- 技術部の仕事量の削減
- 工場の月末時の在庫削減
- 営業マネジメントシステムの有効活用
- 東京営業所売上増(会社全体の売上増)
- 技術部改革
- 不適合の撲滅
- グループ内業務の効率化
- 製作手配書のアシスタント入力比率向上(付帯業務の削減)
- 開発進捗率の向上
- 生産性(稼働率・パフォーマンス)の向上
- グループの生産性向上(技術)
- 生産管理の方針・役割を明確にして生産性向上を図る
- 時間あたりの生産性 5%向上
- 業務の増加と多様化への対応

■アンケート結果まとめ

Q1. 本研修を受けるまで、部下・後輩への指導方法や接し方などについて、悩み・迷い・不安等を感じることはありましたか？

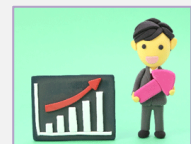
- A あった(ほぼ毎日) 1**  
(コメント)  
○丁寧に接することと甘やかすことの違いの区別
- B あった(時々) 14**  
(コメント)  
○忙しく対応が不十分であると考えていた。  
○年上部下への接し方。手探りでの教育なため、良いのかどうか。  
○リーダーとして何が必要か、どうあるべきか、に悩みがあった。  
○仕事を教える上でなかなか思うようにならない。自分の教え方や方法、対処が悪いのか、それとも相手が悪いのか、悩んだことはあった。  
○なかなか商品知識を覚えられないので、どのように覚えさせるべきか。  
○このやり方、接し方で良いのか、という不安があった。  
○チームのスキル、マンパワーと求められる業務・成果が釣り合わないため、どうして良いか分からず、悶々としていた。部下にもどう指示を出すべきか、悩むときもあった。  
○育成、会議運営。  
○指導の上で何がベストなのか基準がなかったため、自己認識が不足していた。この研修により、ベースの確認ができた。  
○男性、女性の接し方の違い。  
○指示の出し方、報告の受け方。

- 個々のレベルが違うので、接し方をどう変えていったらいいか。  
○なかなか自分の意思が伝わらない。  
○コミュニケーション不足や管理不足といった負い目。
- C 特になかった 3**  
(コメント)  
○問題がないと思いこんでいた。今回のセミナーを受け、不十分だったということがわかった。

Q2. 本研修を受けるまで、部下・後輩にはどのような指導や接し方をしてきましたか？

- A 別の研修(社内や社外での研修)で学んだ指導法を参考に指導してきた 1**
- B 自分が上司・先輩から受けた指導と同じ方法をとってきた 12**
- C どうすればよいかわからないまま闇雲に指導してきた 5**
- D その他(自分の考えのもとに実施していた) 1**

注記: 複数回答した受講者がいたため合計は18名にならない。Dは設問にはなかった選択肢だが、「その他」として受講者が付け加えた。



■セミナー開催報告

Q3. 本研修の満足度をお聞かせください。

- A 満足（今後大いに役立ちそう） 12  
 (コメント)  
 ○自分にとって大半が知らないことだったので勉強になった。  
 ○マニュアルとして活用。
- B ふつう（学んだ内容の一部は役立ちそう） 6
- C 不満（新しく学んだ内容はとくになかった、これまでとあまり変化はなさそう） 0

Q4. 講師の研修の進め方はどうでしたか？

- A 良かった 17  
 (コメント)  
 ○とても勉強になった。難しい部分もあったが、生かすも殺すも自分次第なので、頑張りたいと思う。とにかくやってみてから考えよう。
- B ふつう 1
- C 良くなかった 0

Q5. 本研修で特に良かったのはどの項目ですか？ 5つまで選んでください。

- A リーダーシップのあるべき姿（1日目） 10
- B 問題解決思考（2日目） 5
- C 達成管理マネジメント（2日目） 3
- D 人材育成とは何か（3日目） 9
- E 思い込みの払拭（3日目） 6
- F 聴くスキル（3～4日目） 9
- G 質問するスキル（4日目） 5
- H 褒めるスキル（4日目） 7
- I 叱るスキル（4日目） 5
- J 「指示出し」「報告受け」のスキル（4日目） 6
- K ミーティングマネジメント（5日目） 9
- L プレゼンテーションスキル（5日目） 5

Q6. あなたの同僚や上司、部下（やがてリーダーになる部下）にも本研修の受講を勧めたいですか？（複数回答可）

- A 同僚に勧めたい 9
- B 上司に勧めたい 10
- C 部下に勧めたい 10
- D とくに誰にも勧めない 0

(コメント)  
 ○同じ思いを持てる人材が一人でも増えることは好ましい。上司にも今回の内容が足りていないように思えるから。

Q7. 最後に、6日間の研修を終えてのご感想をお聞かせください。

- 部下もそうだが、上司も今回の研修を受けて今後の指導に生かしていただきたい。社内OJTの強化を図り、今後自分の育てた者がリーダーとなれるように取り組んでいきたい。
- 6日間の研修、とくに実践に近い形で作業・発表・意見交換できたのが良かった。自信につながったと思う。職場ではぜひ実践、情報共有したい。
- リーダーとして必要なスキルが明確になり、自分なりの基準を作り、部下・後輩に接していけると思う。会議のやり方も明確になった。これまで自分がやってきた正しいところ、改めるところが分かった。
- 内容がとてもシンプルで理解しやすかった。独特のテンポとグループミーティングを交えた進め方で、参加しながら講義を受けられたので、身に付きやすいと感じた。
- ディスカッション形式で、時間制限の中、その場で考えてやるスタイルが良かった。
- それぞれの会社、部署によって意見、物の見方が違い、刺激となった。理想のベースは理解したが、社内での外的環境圧力に対しても、いかに実践し継続できるかだと思う。
- リーダーシップを発揮するためには、様々なスキルや考え方が必要であり、単なる思いだけでは難しいことを痛感した。6日間の研修を無駄にしないよう職場で活かしていきたい。
- 普段話すことのない同業の方とグループワークで色々な話ができたのが非常に参考になり、良かった。3日目、4日目午前と少しゆっくりした感じで、4日目午後になりペースが上がりすぎた感じがあり、ペース配分が悪かった。
- 十分な時間をかけて考えることができたのが非常に良かった。効果的な方法が理解できた。

■次回「次世代リーダー育成研修」■  
 開催予定日 は次のとおり

※開催場所は東京都内（機械振興会館、他）

- ・平成26年9月18日(木)、19日(金)
- ・平成26年10月16日(木)、17日(金)
- ・平成26年11月13日(木)、14日(金)の計6日間



■関係官庁からのお知らせ

「消費税転嫁対策室」の設置について【経済産業省】 ～ 消費税転嫁に係る取引上のお悩み相談をお受けします ～

平成26年4月1日に予定される消費税率の引き上げに際し、経済産業省では「消費税転嫁対策室」を設置し、消費税転嫁に係る相談などに対応している。(電話または直接会って相談することも可能。相談者の秘密は厳守)

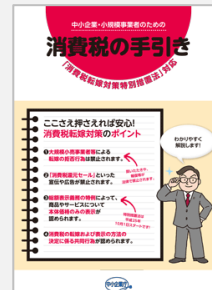
【消費税転嫁対策室に関する掲載ページ(経済産業省HP)】

<http://www.meti.go.jp/press/2013/10/20131002004/20131002004.html>

【中小企業・小規模事業者のための消費税の手引き(中小企業庁HP)】

※消費税転嫁対策特別措置法などについてわかりやすく解説

<http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/pamflet/2013/131008syouhizei.htm>



中小企業・小規模事業者のための消費税の手引き  
(中小企業庁HPよりダウンロード可)

中小企業庁・公正取引委員会の書面調査によると、現在のところ特に製造業界において転嫁拒否行為が多く見受けられるとの報告があり、経済産業省、公正取引委員会より、適正な転嫁の徹底について再要請文が発出(平成26年1月17日付)されている。(適正な転嫁を阻害するような重大な事実が認められた場合は、公正取引委員会が事業者に対し勸告および社名の公表)各事業者におかれましては、消費税転嫁に際し適切なお対応を!

■当会の広報活動報告

「ばるちゃん着ぐるみ」の制作決定!!!

パルプのイメージキャラクターとして、業界ではすっかり馴染みの「ばるちゃん」。パルプの重要な役割を伝えていくキャラクターとして、展示会を始めとする色々な場面で活躍中だが、1月14日の当会新年賀詞交歓会の際、中川副会長 兼 広報委員長より『ばるちゃん着ぐるみ』の制作が決定したとの報告があった。

着ぐるみは、本年5月20日(火)に開催予定の当会「創立60周年祝賀パーティー」で初お披露目の予定で、今後のパルプのPR活動に大いに活躍してもらおう。

パルプのイメージアップのため、これからはがんばります!



当会広報活動について報告される中川副会長 兼 広報委員長 (1/14「新年賀詞交歓会」にて)



← 創立60周年の記念ロゴマーク

■今後の主な予定

当会国際委員会主催のセミナーを次のとおり開催予定。(詳細は1月末に会員企業宛案内予定)

会員限定セミナー / 参加費無料

●● 国際委員会主催セミナー ●●

- テーマ①: 「鍛造業界における海外展開と主要各国の概況」 講師: 一般社団法人 日本鍛造協会  
 テーマ②: 「世界鋳造産業の概要と日本鋳造産業の国際展開」 講師: 一般社団法人 日本鋳造協会  
 開催日時/場所: 平成26年2月26日(水) 午後 / 機械振興会館(東京タワー前)





## ■工業会活動報告（平成25年11月～平成26年1月）

### 諮問会議

#### ・臨時諮問会議

26-01-14(火) 於：銀行倶楽部

出席者：7名

主要審議事項：

- (1) 会計監査基本方針について
- (2) 労務・人事に関する外部コンサルタントの選定について
- (3) 正会員会費徴収基準見直しについて
- (4) 「ばるちゃん着ぐるみ」制作について
- (5) 今後の予定スケジュールについて

### 新・理事会

#### ・臨時理事会

25-12-26(木) 於：機械振興会館

出席者：7名

主要審議事項：

- (1) 会計監査に関する基本方針について
- (2) 労務・人事に関する外部コンサルタント選定について
- (3) 正会員会費徴収基準見直しについて
- (4) 「ばるちゃん着ぐるみ」制作について
- (5) 今後の予定スケジュールについて

#### ・臨時理事会

26-01-14(火) 於：銀行倶楽部

出席者：9名

主要審議事項：

- (1) 会計監査の業務委託について
- (2) 「ばるちゃん着ぐるみ」制作について

### パルプ部会

#### ◎見学会

25-11-25(月) 見学先：王子製紙(株)米子工場

25-11-26(火) 見学先：出雲大社

出席者：14名

#### ◎部会

25-11-25(月) 於：出雲ロイヤルホテル

出席者：14名

主要審議事項

- (1) 競争法コンプライアンス規程について
- (2) 平成25年度JV賞候補者について
- (3) 部長・副部長改選について
- (4) 若手社員研修会の結果報告について
- (5) 各分科会・WGの活動報告について

#### ◎工業用分科会

##### ○電力弁G会議

25-12-12(木) 於：機械振興会館

出席者：11名

主要審議事項：

- (1) 競争法コンプライアンス規程の順守について
- (2) 原発再稼働等について
- (3) 平成26年4月以降の消費税アップによる影響について

##### ○鑄鍛鋼弁G/ステンレス・ボール弁G合同会議

25-11-22(金) 於：(一社)鐵鋼會館

出席者：11名

主要審議事項：

- (1) 国内の石油精製・化学・医薬・食品・LNGガス分野の設備投資について
- (2) 東南アジアやベトナムの石油市場、北米のシェールガスに係る施設のバルブ市場の今後の見通しについて
- (3) 競争法コンプライアンス規程の順守について

##### ◎建築用分科会

25-12-03(火) 於：(一社)鐵鋼會館

出席者：11名

主要審議事項：

- (1) 東京オリンピック開催に伴う今後の建設業界への影響について
- (2) 国交省発表の上半期受注統計調査結果について
- (3) JV-3：バルブユーザガイド改訂の進捗状況について

##### ◎産業用分科会

##### ○彦根産業用弁G、水道用弁G、船用弁G合同会議

25-12-13(金) 於：やす井

出席者：9名

主要審議事項：

- (1) 3部会活動報告
  - (2) その他、情報交換
- 26-01-24(金) 於：やす井

出席者：12名

主要審議事項：

- (1) 3部会活動報告
- (2) 平成25年度下期及び通期生産高について
- (3) その他

##### ◎船用弁分科会

25-12-06(金) 於：メルパルク大阪

出席者：5名

主要審議事項：

- (1) アジアの造船市場の変動について
- (2) 円安による資材の価格高騰について
- (3) 船舶用JIS規格改正の報告

### 自動弁部会

#### ◎見学会

25-11-06(水)

見学先：種子島宇宙センター

参加者：10名

#### ◎部会

25-11-07(木) 於：シーサイドホテル屋久島

出席者：10名

主要審議事項

- (1) バルブ産業ビジョン関連の活動報告
- (2) 受注自主統計のセキュリティ強化について
- (3) 若手社員研修会報告
- (4) Shop Tour 実施計画について

- (5) 講習会実施案の検討
- (6) 部会長・副部会長の改選について

**水栓部会**

◎見学会

25-11-22(金) 於:四国ガス(株) 松山工場

参加者:14名

◎活動報告会

25-11-22(金) 於:道後の宿・葛城

参加者:13名

◎懇親ゴルフ大会

25-11-23(土) 於:奥道後ゴルフクラブ

参加者:11名

◎給水栓標準化小委員会

25-11-28(木) 於:機械振興会館

出席者:10名

25-12-26(木) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 給水装置の構造材質基準・試験方法の見直しについて
- (2) 節湯基準の策定及びJIS化について
- (3) JIS B 2061 改正について
- (4) トップランナー制度について

◎保証小委員会

25-11-29(金) 於:機械振興会館

出席者:8名

26-01-24(金) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) H25年度の取組テーマの振り返り
- (2) H26年度の取組テーマについて
- (3) 「水栓金具の保証期間」冊子見直しについて

◎技術小委員会

25-11-07(木) 於:機械振興会館

出席者:11名

25-12-09(月) 於:機械振興会館

出席者:13名

主要審議事項:

- (1) 新技術研究開発プロジェクト「有害物質規制の対応技術調査」について
- (2) 材料に関する国内・国外の動向調査について

◎節湯WG

25-11-28(木) 於:機械振興会館

出席者:11名

25-12-26(木) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:10名

26-01-27(月) 於:機械振興会館

出席者:13名

主要審議事項:

- (1) 節湯B1(浴室シャワー)の省エネ基準追加について
- (2) 節湯C1(横形)の省エネ基準追加について

- (3) 節湯B1(キッチン水栓)の省エネ基準化について
- (4) 節湯B2(浴室シャワー)の省エネ基準化について

**ビジョン委員会**

25-11-27(水) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 次世代リーダー育成研修事業報告
- (2) 規範・規程案の作成依頼について
- (3) バルブ産業ビジョン第3期アクションプランについて

**広報委員会**

25-12-18(水) 於:機械振興会館

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 学生懸賞論文コンテストについて
- (2) バルブフォト五七五コンテストについて
- (3) 展示会事業について
- (4) バルブの日新聞企画について
- (5) ポスター・グッズ等の制作について
- (6) バルブ産業ビジョン次期アクションプランについて
- (7) 来年度の活動計画について

◎バルブ展示会タスクチーム

25-11-29(金) 於:機械振興会館

出席者:4名

主要審議事項:

- (1) 来年度以降の展示会展出事業について

26-01-16(木) 於:機械振興会館

出席者:4名

主要審議事項:

- (1) ブース制作業者の選定について
- (2) 来年度参加する展示会/イベントの検討

**技術委員会**

25-12-19(木) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 関連JISの改正について
- (2) 若手社員研修会について
- (3) 環境WGの活動情報共有
- (4) バルブ便覧の改訂について
- (5) 技術研修会について
- (6) バルブ産業ビジョン アクションプランについて

◎環境WG

25-12-12(木) 於:機械振興会館

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 厚労省ニッケル浸出基準について
- (2) 環境関連情報10~11月分についての報告
- (3) バルブ産業ビジョン第3期計画について
- (4) バルブ製品アセスメントトライアル評価の実施について

◎バルブ学会設立準備WG

25-12-10(火) 於:機械振興会館

出席者:4名

主要審議事項:

- (1) 特許と学会発表の関係について
- (2) シンポジウム開催案の検討
- (3) アンケート案の検討

バルブ技報編集委員会

25-12-17(火) 於:機械振興会館

出席者:8名

26-01-28(火) 於:機械振興会館

主要審議事項:

- (1) 通巻第72号制作状況について
- (2) 通巻第73号の特集について

調節弁規格作成委員会

◎調節弁規格作成委員会WG

25-12-04(水) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) JIS B 2005-2-1 改正審議

IEC委員会

25-12-04(水) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 国際会議について
- (2) JWG17の活動(List of Properties)について

ISO/TC153/SC1 国内対策委員会

25-11-21(木) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) カナダ国際会議報告
- (2) 各WGの活動状況報告
- (3) 国際投票について

ISO/TC185 対策委員会

25-11-08(金) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 国際投票について
- (2) 気液二相流の吹き出しに関する研究報告

国際委員会

25-12-13(金) 於:機械振興会館

出席者:6名

主要審議事項:

- (1) 安全保障貿易管理説明会の開催について
- (2) 第3期バルブ産業ビジョンアクションプランについて
- (3) 平成25年度後期・平成26年度のセミナー開催について

規程類等見直しタスクチーム

25-11-26(火) 於:新大阪丸ビル本館

出席者:5名

26-01-23(木) 於:名古屋「安保ホール」

出席者:7名

主要審議事項:

当工業会制定の諸規程等について、見直し検討を行った。

支部だより

東京支部

○役員会

25-11-19(火) 於:ホテル日航福岡

出席者:20名

主要審議事項:

- (1) 東京支部夏期研修会収支報告
- (2) 東京支部秋期会員総集会収支報告
- (3) 平成25年(1~8月)バルブの生産および輸出入実績について
- (4) 次世代リーダー育成研修開催報告
- (5) 東京支部役員交代について(前澤工業(株))
- (6) その他
  - ・市場動向について
  - ・人財育成について

東海支部

○新年祝賀会

26-01-23(木) 於:岐阜グランドホテル

参加者:13名

○懇親ゴルフ大会

26-01-23(木) 於:岐阜関カントリー倶楽部

参加者:10名

優勝:早川 徹氏(株)水生活製作所

彦根支部

○忘年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

25-12-13(金) 於:やす井

参加者:11名

○新年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

26-01-24(金) 於:やす井

参加者:13名



**近畿支部**

○新年互礼会

26-01-24(金) 於:大阪新阪急ホテル

参加者:54名

○役員会(施設見学会)

25-11-28(木)

見学先:①(株)フジキン 筑波研究工場

②宇宙航空研究開発機構(JAXA)

懇親会:筑波山温泉旅館「江戸屋」

出席者:9名



(株)フジキン 筑波研究工場での集合写真

**■会員の動向**

代表者変更(敬称略)

・前澤給装工業(株)

平成25年12月 代表取締役社長 山本 晴紀

移 転

・石田バルブ工業(株)

新住所(平成25年12月24日より)

〒108-0023 東京都港区芝浦3-20-2 山楽ビル4階

TEL:03-3455-5271 FAX:03-3455-8690

(TEL・FAXの変更なし)

・BS&B セイフティ・システムズ(株)

新住所(平成26年1月11日より)

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3-11

SGリアルティ横浜4F南

TEL:045-450-1271 FAX:045-451-3061

(TEL・FAXの変更なし)



■ ■ ■ 会員企業の皆様へ ■ ■ ■

～(一社)日本バルブ工業会事務局からのお願い～

地震、台風などの災害による会社社屋への被害や、製品の製造作業中に死傷者がでる事故等が発生した場合には、速やかに当会宛にご報告をお願いいたします。

(報告の目安)

- ・従業員、作業員等に死傷者が生じた災害または事故
- ・会社の生産活動に支障を及ぼした災害または事故

災害、事故によっては、国が必要な対策を講じなければならない場合もあるため、報告の速報性が重要となります。(災害、事故報告の第一報は、分かっている範囲の内容で結構ですので、まずは第一報を速やかにご報告ください。)

提出された「事故、災害報告書」については、内容を確認の上、所管官庁(経済産業省)へ報告いたしますが、当会及び経済産業省が本報告書をもとに対外的に公表することはありません。

※「災害、事故報告書」の様式は [当会HP](#) 「会員専用サイト」の [事務局からのお願い](#) をご参照。

(会員専用サイトへは、各社のユーザーIDとパスワードの入力要)



本年もよろしくお願ひ申し上げます!

平成26年1月28日発行 ■ ■ ■ JVMA 通信 No.11 ■ ■ ■

(発行元) 一般社団法人 日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: [info@j-valve.or.jp](mailto:info@j-valve.or.jp)

